

# かごしま 厄除けワールド

病魔退散!

Vol.2  
「家内安全!貝で家をまもろうカイ」の巻

黎明館の常設展示民俗部門の「南島」コーナーには、奄美大島の<sup>あまみ</sup>大和村今里集落の民家から移設されたサンゴの石垣を展示しています。

さて、この石垣には、奄美の人々が家を魔物や悪病から守るためのアイテムが隠れています。背景の仮面たちが気になるかもしれませんが(笑)、仮面はひとまず置いて、石垣をよーく見てみましょう。



(黎明館 常設展示)

答えは……………

石垣の上に置かれた  
かいがら  
**貝殻** です

奄美大島では、スイジガイやクモガイなどを家の門柱や玄関付近、塀の上に置いている家を多く目にします。右の写真は、調査のときに見かけた、ブロック塀にスイジガイとサラサバテイラ(高瀬貝)を置いた民家です。

スイジガイ



(黎明館蔵)

クモガイ

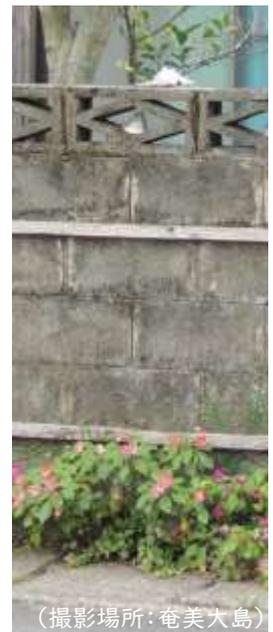


(黎明館 常設展示)

サラサバテイラ



(黎明館 常設展示)



(撮影場所:奄美大島)

スイジガイ(水という字に似た形のため、水字貝と呼ばれる)やクモガイを魔除けとするのは、貝の長い角や口を魔物が恐れて近づかないという考えに基づいています。また、スイジガイは「水」ゆえに火災除けの意味もあるようです。こうした考え方は、奄美をはじめ、沖縄などの南西諸島に多く見られます。

ちなみに、この魔除け、沖縄島では貝を「吊り下げ」ますが、奄美大島では、「置く」ところが多いようです。

海へ遊びに行ったとき、こうした貝を拾ったら、家庭で魔除けにするのもよいかもしれませんね。

学芸員 小野